

学番	中等3	新潟県立燕中等教育学校
----	-----	-------------

令和4年度

学校自己評価表（報告）

学校運営計画		
学校運営方針	<p>「地域に立脚しつつ地球的視野で活躍できる人材の育成」</p> <p>(1) 生徒から信頼される指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力の育成 ・明確な目的意識の形成と高い学習意欲・向上心の育成 ・自己理解の深化と意思決定能力の育成 <p>(2) 社会に貢献する人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな人間性と健やかな身体を育成する教育の推進 ・道徳教育の充実、規範意識の育成 ・ユネスコスクールの理念を踏まえた社会貢献活動の実施 <p>(3) 保護者・地域から信頼され、選ばれる魅力ある学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者、学校関係者評価の実施、学校評議員の活用 ・地域社会の人的物的資源を活用した開かれた学校づくりの推進 	
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度は、新しい生活様式を取り入れながら、体育祭や文化祭をはじめ、規模を縮小しながらではあるが、多くの行事を実施することができたこともあり、概ねA評価であった。 ・各種学校行事をとおして、自己理解や自己分析を深め、6年間の計画的・継続的な進路指導を進めることができた。 ・ICT機器を活用した授業改善に取り組むことができた。 ・生徒指導研修や授業改善研修をとおして、職員の指導力向上及び意識高揚を進めることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部会、教科、学年等の具体的方策について、令和4年度は生徒の成長が具体的に見えるように工夫した観点別評価を実践するとともに、生徒の主体的な学びへと導くための取組について検討を進める。 ・ICT機器を活用して生徒の学力向上と進路希望の実現のために、授業改善をさらに進める。そのために、各種研修や研究会へ積極的に参加する。 ・生徒の人権を尊重し、自主性と自律を促す生徒指導の充実を図るために、校内研修の充実と、学校行事等の目的を整理し、明確にする。 ・働き方改革の実践と教育活動の充実に向けた業務の効率化を進める。 	○学習指導に対する生徒の信頼と安心の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容の充実 ・一人一人の授業改善 ・ICTの活用 ・探究型学習の推進
	○生徒、保護者の希望を叶える進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学進学率50% ・難関大学及び医学部医学科等10名合格
	○生徒の人権を尊重し、自主性と自律を促す生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ励行 ・生徒の自律的な行動及び規範意識の育成 ・中途退学者0、いじめ見逃し0、問題行動0
	○個性、人間性、体力の育成、社会貢献の意識高揚	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいを意識した体験活動と事前・事後学習の充実 ・全校ウォーク、つくば科学の旅、種子島修学旅行、海外研修旅行等
	○教育の充実に向けた開かれた学校づくりと働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用、地域リソース活用及び専門機関連携による業務効率化・改善の推進 ・校務の再整理と業務平準化 ・学校行事の見直しと改善

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価	
教務部 学習指導 に対する 生徒の信 頼と安心 の確立	6年間一貫した教育を実 践・開発する。	6年間一貫した教育目標のもと、地域の特色を活用した魅 力ある教育課程を実施する。	A	A
		入学当初から大学受験までを見通したシラバスを作成し、 学校全体で計画的な学習指導を行う。	A	
		社会に開かれた教育課程の実現に向けて、P T A等と連携 しながら、外部の物的・人的リソースを活用する。	B	
	基礎・基本の着実な定着と 学力向上のための諸条件を 整備する。	授業時数を確保する。	A	A
		指導と評価の一体化に向けて、基礎・基本の定着を見取る 評価方法と、未定着な場合に生徒を支援する手立てを改善 する。	B	
		進路指導部と連携し、前期課程から大学入試までを見据え た取組について、日程調整する。	A	
	授業内容の充実を図る。	授業公開週間を設定し、授業改善の取組を活性化するとと もに、職員研修を通じて成果を共有する。	B	B
生徒 指導部 自主・自 立を確立 するた めの支 援・指 導の充 実	社会規範を理解するととも に、自分の言動に責任をも ち、主体的に考え、判断 し、行動することができる 生徒を育成する。	公共の場におけるマナーや交通ルール、場に応じた服装に ついて年間をとおして指導する。また、全校集会などの折 に、学期に1回以上指導する場を設ける。	A	A
		マナーの基本としてのあいさつを励行するために、生徒み ずから主体的に考え、活動する場を設ける。	B	
		いじめ見逃し0を目指して、生徒みずから主体的に考え、 活動する場を設けるとともに、職員の校内研修も拡充す る。	A	
	生徒会活動など学校生活の 様々な場面で仲間を尊重 し、他者に対する想像力を もって行動できる生徒を育 成する。	個々が活躍できるような活動の場面を設け、生徒の自己肯 定感の涵養に努める。また、事後の評価や振り返りによっ て学びを深めるとともに次の活動への意欲を喚起する。	A	A
		生徒会の諸活動では、集団の中で仲間とともに企画・実行 し、他者と協力して活動する力を身につける。それととも に、自ら課題を見つけて主体的に解決する能力を育てる。	A	
		縦割り班活動を通じて、集団の一員として行動する中で、 他者への想像力や共生の精神を育む。	A	
	進路 指導部 生徒の進 路実現に 向けたキ ャリ教育 の充実	生徒の進路実現に向けて、 生徒の学力向上に努力す る。	共通テスト受験者100%、5(6)-7(8)受験者100%を目指し、校 内平均点が全国平均点を上回るような学習指導を行う。	A
6年生において生徒の進路に応じた課外講習を設定し、計 画的に実施する。			A	
4・5年生の週末講座等を利用して進研模試の事前事後の 指導を年3回行い、生徒に具体的な目標を設定させる。			A	
前期課程において、全国学力学習状況調査、N R T、学力 推移調査を利用し、生徒の学習到達度や学習状況を把握す ることで学年全体や個々に応じた指導を行う。			B	
前期課程において、デイリーライフ、スタディプランを利用 し、生徒の学習習慣と生活リズムを把握し、個々に応じた 指導を行う。			A	
生徒の進路実現に向け、情 報を収集・共有する。		模試成績についての情報提供を速やかに行い、学年・教科 で検討できる環境を整える。	A	A
		進路指導部会を定期的に行い、情報の交換とノウハウの伝 達を密に行い、その内容を教職員で共有できるようにす る。	A	

		学年便りや学年PTAの場で、生徒の学習課題、模試成績、進路情報についての情報共有を保護者に対して行う。	B		
		6年生個々の生徒について、進路志望と模試成績、共通テスト成績について意見交換できる検討会を年3回実施する。また、成果と課題を職員間で共有する機会を設ける。	A		
保健・支援部 心身の健康の保持増進と校内安全・衛生の管理	心身ともに健康な学校生活を送ることができるようにする。	健康の自己管理能力の向上と、心身の健康の保持増進を図る。	B	A	A
		心の問題を抱える生徒の早期発見・早期対応に努める。	A		
		前期課程の学校給食について、食についての理解を深め、食に関する指導の充実を図る。	A		
	安全で安心な学校生活を送ることができるようにする。	安全・防災についての知識・技能を習得し、日常の様々な危険に対して、適切な判断・行動ができるように実践的な態度や能力を育成する。 地震及び火災発生を想定し避難訓練を年1回実施する。	A	A	
		校内の安全・衛生管理に留意し、事故防止に努める。 校舎の安全点検を年2回実施する。	A		
研究・情報部 先進的な授業研究とICT環境等整備・活用促進	先進的な授業・取組を研究し、校内研修等を通じて職員の指導力向上を図る。	視察や報告書等を通じて、全国の先進的な授業・取組を研究し、職員会議でカリキュラム改善に向けて提案する。	A	B	B
		総合的な学習・探究の時間における課題研究のシラバスを開発・改善し、職員研修を実施し、授業改善を図る。	B		
		ユネスコスクール、WWL事業及び県の事業を活用し、他校・大学・企業等と連携網を構築・充実する。	B		
	ICT環境、図書室・視聴覚機材を充実し、活用方法を研究・普及し、生徒・教員のICTリテラシーを高める。	視察や報告書等を通じて、全国の先進的な授業・取組を研究し、成果報告を通じて教育情報化を推進する。	A	A	
		教育用アプリやクラウドサービス及び活用方法について、情報収集・研究し、教員へ資料提供し、授業改善に資する。	A		
		図書室の蔵書を充実させ、利用方法等を改善し、生徒の利用状況を向上させる。	B		
	学校ウェブサイトを活用する。	学校ウェブサイトを更新するとともに、休業期間を除いて、毎週1回以上更新する。	C	C	
国語科 表現活動等を通じて、言語運用能力の育成を図る。	国語を適切に表現し、正確に理解する能力を育成する。	授業内で生徒同士の対話的な学習や、作文やプレゼンテーションなどの表現の機会を積極的に取り入れることで、思考力・判断力・表現力の伸長を図る。	A	A	A
		年3回実施する漢字検定において、各学年で目標級を定めて学習を奨励することで、漢字・語彙力の育成を図る。	A		
		生徒全員が文芸作品を創作し、大会に出品することをとおして、言語感覚を養う。	B		
	卒業後の進路を見据えて、大学入試への応用力を育成する。	漢字・語彙・古典知識等の小テストを行う。	A	A	
		小論文模試・小論文講習会を行う。	A		
		放課後講習・長期休暇特別講習・受験直前講習を、年間をとおして実施する。	A		

社会科 社会科学 思考力を 育成す る。	社会問題に関心を持ち社会科学的思考力を身につけさせ、問題解決能力の育成を図る。	地歴・公民各教科の繋がりを意識させ、授業においてICTを積極的に活用して、国内や世界で起きている様々な事象の原因について考察し、グローバルな視点を構築できるようにする。	B	B	B
	卒業後の進路を見据えて、大学入試への応用力を育成する。	生徒個々の進路目標実現のために、朝テストや放課後補習等の課外講習を行う。 大学入学共通テストや個別試験に対応できる力を身につけさせる。大学入学共通テストでは全国平均点以上を目指す。	A B	A	
数学科 数学的に 考える資 質・能力 を育成す る。	基礎学力の定着を図る。	少人数クラスのメリットを活かし、きめ細かくわかりやすい授業を行う。	A	A	A
		家庭学習の習慣化と授業内容を定着させるために、週1回以上適宜課題を課し、提出率80%以上をめざす。	A		
	卒業後の進路を見据えて、大学入試への応用力を育成する。	1、2、3学年でそれぞれ数学検定5級、4級、3級の取得を目標に据えて受検を勧め、受検率を80%以上にする。 年3回実施する模試にあわせ、既習内容の復習を行い、発展・応用力の育成を図る。	A A	A	
理科 自然の事 物・現象 を科学的 に探究す る力を育 成する。	論理的な思考力に基づき、理科の現象について理解できる力を育成する。	実験や演示を取り入れ、興味・関心を引き出し、理解を深める。関連した内容の演習を行い、学習内容の定着を図る。	A	A	A
		論理的な思考力の育成の結果として、共通テストや個別入試問題に対応できる学力を養成する。その目安として共通テストが全国平均点を越えるように指導する。	A		
		高大連携あるいはこれにかわるものについて、事業の継続発展のため、年4回実施する。	A		
英語科 言語運用 能力を育 成する。	英語が使える知識・技能・表現力を育成する。	6か年指導計画に基づき段階的指導を行うため、CAN-DOリストによる学習到達目標を明示し、指導・評価を行う。	A	A	A
		ICTを効果的に活用し、生徒の理解を助ける授業を行う。	A		
	グローバルな視野を育成する。	地域課題から国際情勢まで様々な事柄に対して問題意識を持たせ、解決に向けた英語による思考力と表現力を育てる。 海外研修を活用し、授業内容を工夫するとともに、夏季集中プログラムや成果報告会等を行う。	A A	A	
音楽科 音楽的な 感受性を 育成して いく。	工夫して音楽を表現する力を育成し、作品の魅力を感受する感性を高める。	歌詞の意味や音楽を形づくっている要素を知覚させ、工夫した音楽表現へ結び付ける。	A	A	A
		発声練習や音の読み書きなど、基礎的な練習を毎時間行う。	A		
		各作品を様々な視点（音楽的要素・作曲の背景・作曲者の生涯など）から捉え、作品の魅力を感受する能力を高める。	A		
美術科 美術的要 素に気づ く力を育 成する。	作品をつくり、鑑賞する面白さを体験させる機会をつくる。	デザイン、色彩、用具の扱いなどの基礎的な力を身につけさせるための実習を行う。	A	A	A
		作品のアイディアをたくさん出させ、発想力を高める。	A		

保健 体育科 楽しく、 健康に、 運動に親 しむ。	基礎体力の向上を図り、健 やかな身体の育成する。	毎時間ランニング、学校体操等の準備運動を行う。	A	B	B
		年1回体力テストを行い、各学年で全国平均点を上回るようにする。	B		
		計画的に保健や体育理論の授業を行い、運動・健康に関する知識を深める。	B		
技術・ 家庭科 問題解決 能力を育 成する。	身近な生活の中で生かされ る技術を身に付け る。	ものづくりを通じて、技能を習得させる。	A	A	A
		快適な生活を送るための意識を高める。	A		
		調理実習を年間4回実施する。	A		
1学年 燕中等生 として、 学習規律 を確立さ せる。	学校生活の基盤となる学 習・生活の習慣や態度を身 につける。	デイリーライフ等を活用し、適切な学習習慣・生活習慣の 確立のための支援を行う。	A	A	A
		生徒同士が良好な関係を築くための活動（新入生オリエン テーション合宿）や計画的な教育相談・支援を行う。	A		
	意欲的に学校生活を送る生 徒を育成する。	計画表等を活用し、何事にも前向きで、目標に向かって粘 り強く取り組むことのできる生徒を育てる。	A	A	
		地域学習やSDGs学習を通じて、社会的視野を広げると ともに、自己理解を深め、進路選択への基盤を作る。	B		
2学年 基礎学力 の向上と より良い 友人関係 づくりを 図る。	基礎学力の定着を図るとと もに、キャリア形成能力の 基礎をつくる。	すべての生徒が学習に向き合えるように個に応じた支援を 行うとともに、生徒の学習意欲を高める授業を実践する。	A	A	A
		職場体験学習と修学旅行を軸にして、つながりのあるキャ リア教育を実践する。	A		
	自他の良さを大切にしながら、 良好な人間関係やより 良い集団を築こうとする態 度を育成する。	生徒が意欲的かつ主体的に諸活動に取り組む態度を育成す るため、計画的な教育相談・支援を行う。	A	A	
		挨拶、時間意識、コミュニケーション力を中心とした生徒 の社会性の向上を図るための指導を継続的に行う。	B		
3学年 基礎学力 の完成と 進路意識 の向上を 図る。	意欲的かつ主体的に学習や 諸活動に取り組む態度を育 成する。	普段の授業改善を通じて「わかる授業」を基本とし、教育 相談や支援を計画的に実施する。	A	A	A
		朝テストを毎週1回実施し、基礎学力の定着と学習に対す る意識の向上を図る。	B		
	将来の生き方や進路に関し て現実的に探究する態度を 育成する。	前期最高学年としての自覚をもたせ、責任感や社会性等を 高めるための指導を行う。	A	A	
		職場体験学習、修学旅行および大学見学、学習合宿を軸と して、後期課程に向けて進路意識を高めるための指導を行 う。	A		
4学年 後期課程 のスター トをスム ーズに行 わせる。	学習習慣および生活習慣を 確立させる。	「授業第一」を掲げ、基礎学力の充実を目指す。家庭学習 のさらなる習慣化を図る。	A	A	A
		手帳を常時活用させ自律的に生活を送るようにさせる。	B		
	進路目標を明確にさせ、主 体性を育成する。	大学調べや教育相談を通して自己理解を深め、文理選択を 支援し、進路目標を明確にさせる。	A	A	
		海外研修を通して、他者理解、自己表現力の向上を図る。	A		
		各種学校行事への積極的参加を促す。	A		

5 学年 学力と進路意識の向上を図り、主体性を育成する。	確かな学力の定着と進路実現に向けた実践力を向上させる。	「授業第一」を掲げ、確かな学力の定着と進路実現に向けた実践力の伸長を図る。	A	A	A
		見通しをもって学校生活、課外活動及び家庭学習に取り組めるよう、個人手帳を常時活用させる。	B		
		主体的な進路選択、進路実現に向けての計画と実行ができるよう、面談や様々な進路学習の機会を通じて支援する。	A		
	集団活動においてリーダーシップを育成する。	学校行事で中心的役割が果たせるよう、主体性と協調性を育成する。	A	A	
6 学年 学力を錬成し、生き方を主体的に選択させる。	基礎力・実践力ともにそなえた確実な学力を錬成する。	「授業第一」を掲げ、基礎学力の定着と学習習慣の充実を図る。	A	A	A
		各種模擬試験や講習を通じて、進学に必要な実践力を養成する。	A		
	生き方を主体的に選択し、実現できる人格を育成する。	自己理解、主体的な進路選択、進路実現に向けての計画と実行ができる人格の育成を目指し、教育相談や進路講演会、小論文指導などの機会を通じて支援する。	A	A	
		最上級生として、学校生活全般を通じて中心的役割を果たすよう、リーダーシップの伸長を図る。	A		
その他 家庭や地域との連携を図り充実した教育活動を展開する。	情報の積極的な発信を図る。	学校だよりを毎月1回は発行する。	C	B	A
		学校行事への保護者・地域住民の参加者数が前年度を上回るよう広報活動を積極的に行う。	A		
		家庭や地域と連携し、教員の働き方に対して理解してもらうとともに、教育活動について、保護者や地域の方々の意見を聞く機会を設ける。	B		
	正しい知識に基づき、偏見を排除する精神を養う。（「人権・同和問題についての正しい知識と、差別を許さない信念を育成」）	「生きる」の活用や各教科において同和問題を中核とした人権の学習を行う。（人権教育、同和教育強調週間で「生きる」を用いた授業を1回以上実施する。）	A	A	
一人一人を尊重する学級経営を推進し、人権意識を高める。教科学習や講演会等を利用し、人権意識を高める。		A			
成果	【教務部】 ・移動コマ方式での時間制作成は困難が予想されたが、毎週の時間変更も含めてトラブルなく運用することができた。 ・統合型校務支援システムの導入においては、システムの行き届かないところを旧来のやり方との併用でスムーズに移行することができた。 ・感染症拡大防止に努めながら、音楽発表会を実施することができた。			総合評価	
	【生徒指導】 ・コロナ禍の中でも、可能な限りの対策を講じながら飛燕祭（体育祭）、秋燕祭（文化祭）や夏季球技大会、全校ウォーク、縦割り班活動によるいじめゼロスクールなどを開催し、生徒の成長・活躍の場を確保することができた。 ・「SNS教育プログラム」や「SOSの出し方に関する授業」を各学年が計画的に実施できるよう準備をした。結果、全学年でスムーズに実施することができた。 ・生徒会誌を創刊発行し、次年度以降も継続できる形に整えた。 ・生徒指導職員研修では、SC、新潟少年鑑別所職員、新潟大学准教授など、専門家の協力を得ながら、効果的に実施することができた。			A	

【進路指導部】

- ・医学部志望者向け講演会や難関大学志望者向け講演会を実施し、進路に対する意識啓発を促せた。
- ・スタディプランの様式を変更し、どの生徒に対しても各教科の一週間の進度がわかるようになった。

【保健・支援部】

- ・安全点検を実施し、技術員、事務職員の協力で修理の必要な箇所を修繕した。
- ・清掃分担表を基に、日常生活の衛生管理を行った。
- ・消防署の職員を呼んで避難訓練が実施できた。前期生の消火器訓練も実施できた。
- ・生徒理解の会の資料作成方法を見直し、情報共有を行いやすくなるよう工夫した。
- ・スクールカウンセラーと連携し、コンサルテーションを通じて個々の生徒の支援策を考えることができた。
- ・支援ルームを8名の生徒が利用した。

【研究・情報部】

- ・教員のICT活用推進のための研修会を開催した。
- ・総合的な探究の時間の取組としてつばくろ探究をスタートした。
- ・県外視察を通じて、先進校の取組を研究することができた。

【国語】

- ・作文・スピーチ指導、創作指導に力を入れたことにより、多くの入賞者を出した。
「とうきょう総文祭2022」弁論部門 優良賞（後期生）
「新潟県高等学校弁論大会」優秀賞（次年度総文祭出場）、優良賞（後期生）、奨励賞（後期生）
「少年の主張新潟県大会」奨励賞（地区大会最優秀賞、前期生）
「宮柊二記念館全国短歌大会」宮柊二記念館長賞（前期生）
- ・漢字検定を積極的に奨励し、語彙力の向上を促した。
- ・すべての教員が対話を取り入れた授業を行うことで、多くの生徒が自分の意見を明確に伝える技術を身につけた。
- ・chromebookやiPadの活用法を模索し、国語科におけるICT教育のあり方について検討した。

【社会】

- ・コロナ禍の中であっても、授業を計画どおりに進めることができた。
- ・朝テスト・放課後補習は計画的に継続して行うことができた。
- ・ICTを活用した授業を実践することができた。

【数学】

- ・コロナ禍においても計画的に授業を進め、復習や演習の時間を確保することができた。
- ・ICT機器の活用方法を模索し、実践ができた。

【理科】

- ・学年・進路と連携して長期休業中および平日の講習を実施することができた。
- ・デジタル教科書等、ICT機器を活用して、理解を深めた。
- ・グループワークなどでより深い学びができ、全国学力・学習調査の結果にも表れた。

【英語】

- ・Can-Doリストの目標達成をもとに指導を行い、概ね計画通りに学習を進めることができた。
- ・コロナ禍ではあったが、3年ぶりに海外研修を実施することができ、生徒たちの英語学習へのモチベーションをあげることができた。帰国後に行う成果発表会や学年スピーチコンテストの本選大会、文集作成などについても、しっかり指導することができた。
- ・海外研修に参加できなかった生徒にも、国内プログラムを実施することができ、生徒からの評価も高く、有意義な研修となった。
- ・校外で行われた各種コンテスト、イベントに複数の生徒が参加し、学年を牽引する生徒の養成を図ることができた。
- ・3学年では、弁論大会の校内予選に、各クラス全員参加させることで、大会に出場する生徒以外の英語力、表現力の向上を図ることができた。
- ・4学年では、各種スピーチコンテストの校内予選を、学年全員参加で、年に2回行うことができた。
- ・5学年では、昨年度に引き続き、学年スピーチコンテスト（予選には学年全員参加）、学年プレゼンテーションコンテストを実施することができた。
- ・6学年では、大学入学共通テストの英語の校内平均点を、高く打ち出すことができた。
- ・検定試験に積極的に挑戦する生徒が多く、多くの生徒が合格している。
- ・今年度から7限が廃止されたため、放課後の空き時間を利用し、生徒がALTから個別指導を受けたり、交流したりする「ALTタイム」を設置することができ、その稼働率も全体的に高かった。
- ・後期課程用の新しい観点別評価について、3つの観点の割合を決めて評価することができた。

【音楽】

- ・毎回の授業で、呼吸法や発声練習をする事により、腹式呼吸が身に付き、歌唱やアルトリコーダーにおいて、ふくよかな声や音色が出せるようになった。

【美術】

- ・美術の様々な分野の実習を取り上げ、広く美術の世界を体験させることができた。
- ・制作の前提となる道具や画材の扱いをきちんと習得させることができた。

【保健体育】

- ・感染症対策をしながらも大きな問題なく授業を行うことができた。
- ・重大な事故やケガがなく安全に配慮しながらできた。

【技術家庭】

- ・長期の計画が立てにくい状況であったが、該当分野を終わらせることができた。
- ・タブレットPCを活用した授業を取り入れることができた。

【1 学年】

- ・ここ数年、コロナ禍で中止になっていた筑波への研修旅行を再開できたことで、生徒の宇宙・科学への関心を高めることができた。
- ・積極的にICTの活用を取り入れた活動を行った。

【2 学年】

- ・鹿児島・種子島への修学旅行で宇宙・科学への関心を高めることができた。
- ・積極的にICTの活用を取り入れた授業を行った。また、修学旅行のまとめ作業にiPadを使用し、生徒のICTの活用を進めることができた。
- ・GoogleClassroomでの授業配信に努めることができた。

【3 学年】

- ・大学見学や後期課程への意識付けを通して、進路意識を高めるための指導を実践。
- ・丁寧な生徒指導と保護者連絡、職員間のこまめな情報共有。

【4 学年】

- ・3年ぶりの海外研修を実施した。校外で体験的学習を通じて、異文化理解を深めたり、集団行動を学ぶ貴重な機会となった。
- ・BYODを順調に導入できた。
- ・「総合的な探究」活動を、試行錯誤しながら少しずつ進めている。

【5 学年】

- ・海外研修旅行の成功。
- ・外部大会への積極参加。
高等学校弁論大会（優秀賞）、英語スピーチコンテスト、「世界津波の日」高校生サミット

【6 学年】

- ・コロナ禍の中、学習合宿、飛燕祭等をやりとげて協調性とリーダーシップを育成できた。
- ・授業や講習、模試などの回数もほぼ計画通り確保でき、学力の伸張を果たせた。

令和4年度

学校関係者評価（報告）

学校関係者からの評価・意見等※

令和4年度第2回学校評議員会・地域の声を聞く会（令和5年2月20日開催）において、学校関係者や地域代表から本校の進学に対する取組と結果や、保護者学校評価結果の内容、本校の生徒の活躍の結果などをもとに、学校の状況について改善したという評価をいただいた。いただいた意見や今後の改善方策とともに以下に示す。

- 1 令和4年度入学者選考検査合格者74名中、燕市内からの生徒が50%以上占めており燕市内の保護者の理解が高いのではないかと。また、海外研修が再開され、周辺地域の保護者から生徒の活躍が話題にのぼり、学校に対する理解が深まっているものと思う。
→ 燕市内の保護者、地域の皆様からの理解が深まっているように感じる。地域の期待も大きく、教育目標である「地域に立脚しつつ地球的視野で活躍できる人材の育成」を目指し、地域の期待に応えられるよう努める。
- 2 燕市の「Jack&Betty」や「羽ばたけつばくろ」、「まちあそび部」などへ積極的に参加していただき、感謝している。今後も燕市の事業との協力を深めていきたい。
→ 今後も燕市の事業について周知するとともに、部活動や探究活動において参加や協力を促していく。
- 3 12期生と13期生の進学状況を見ると、先生方が熱心にかつ丁寧に指導されていることがわかる。職員全員で、生徒の特性を見て丁寧な進路指導をしている結果ではないかと。
→ 生徒の進路希望が実現できるように、今後も6年間を見通した教科指導等を職員全員で取り組んでいく。
- 4 普段から地域の中では電車のマナー等、落ち着きのある生徒たちの良い姿が見られる。これからも地域のリーダーとなる生徒が育まれるようお願いする。
→ 地域のからの多くの支えがあり、期待されていることや、周囲からの温かな言葉を職員や生徒で共有し、規範意識の涵養に努める。

※「自己評価の結果の内容が適切かどうか」

「自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか。」

「学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切かどうか。」

「学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか」などを評価する。

学番	中等3	新潟県立燕中等教育学校
----	-----	-------------

令和4年度 学校自己評価表（報告）

学校運営実施報告	
重点目標	学校関係者評価を踏まえた次年度の主な課題と改善策
○学習指導に対する生徒の信頼と安心の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で制限がかかる中においても計画的に授業内容行い、教育目標に基づき6年間をとおした教育活動でグローバルな人材育成を進めた。 →グローバルな人材の育成の視点を全職員で共通理解する校内体制をつくり、指導を推進する。 ・ICT校内研修が行い、各教科で授業実践が進められているが、さらなる活用を推進する。 →生徒用のiPadの活用に向け、アプリケーションについての研修を実施し職員の実践力の向上を図る。 ・探究型学習の推進では「つばくろ探究」を開始し、今後は総合的な学習の時間と総合的な探究の時間の接続を円滑にする。 →3年次でSDGsをテーマにした学習を進め、探究型学習の基盤を作る。
○生徒、保護者の希望を叶える進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・前期課程では、総合的な学習の時間を中心に進路を考えさせる指導を、後期課程では、年間を通し一人一人の進路実現のための具体的な指導を実施し、明確な目的意識を持たせる。 →今後も、生徒一人一人の目標が達成できるように丁寧に指導し、国公立大学進学率と難関大学及び医学部医学科等合格者数を今後も増加させていく。
○生徒の人権を尊重し、自主性と自律を促す生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルな人材育成のための外部との連携を多くもつ。 →外部の専門機関との連携を強化し、行動できる環境づくりに努める。 ・全校が一堂に会する場面が少なく、挨拶や生活習慣に関する指導について学年や学級間での差が生じており、職員が情報共有し指導する体制に戻していく。 →各学年の生徒指導部が中心となり、全校で共有して指導にあたり、大多数の生徒が正しい生活習慣を身に着けている状況を継続していく。 ・生徒の自律的な行動及び規範意識の育成に向け、校則の見直しを進める。 →管理職や生徒指導部を中心に、生徒を含めて協議し対応していく。 ・中途退学者、いじめ、問題行動を減少させる。 →該当生徒、保護者に寄り添う姿勢を大切にし、関係機関と連携しながら学校全体の組織として対応する。
○個性、人間性、体力の育成、社会貢献の意識高揚	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいを意識して本校の教育目標に沿った教育活動を展開することに努めた。行動の制限がある中、1年生は「宇宙科学の旅」、2・3年生は「種子島修学旅行」でのJAXA施設の見学、4・5年生は「オーストラリア海外研修」での英語研修を実施した。 →体験学習や探究学習など関連づけながら、本校の教育目標に沿った教育活動を展開し、6年次の「大学受験」等、さらに成果が上げられるように努力していく。
○教育の充実に向けた開かれた学校づくりと働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・年間をとおし研究授業を行い、「知的好奇心を高める活動」を保護者や地域住民に伝えてきた結果、本校の教育活動が地域に受け入れられている。 →学校だよりやホームページを活用し、さらに情報発信に努める。 ・授業公開や研修会や行事を広く地域や周辺の小中学校・高校に発信し、交流を図る。 →地域の関係団体、市や小中学校・高校に働きかけ、一層の相互交流ができる環境づくりに努める。行事や授業を公開し、地域に本校の生徒や教員の指導を見ていただき改善に努める。 ・地域や専門機関との連携、学校行事の見直しやICT活用による業務の効率化を推進する。 →教育課程推進委員会を中心に行事等の精選を進め、業務の効率化を図る。